

Nous devons aller en France.

97年最後にお手元に届いた本号の特集はいかがでしたか?多岐にわたる宇宙塵研究の到達点を一つにまとめるという意欲的な企画で、多くの執筆者と厳正な査読者各位にご協力を頂きました。また、高木先生をはじめとする編集部の皆様には、ゲストエディターの不慣れを寛容にフォローして頂きました。

私事で恐縮ですが、この編集後記の依頼を受けた直前、私は神戸大の中村良介さんと、AmesでのExo-Zodiacal Dust会議とマウナケア山での黄道光・対日照の観測に参加していました。そこでは、本特集よりもさらに進んだ宇宙塵研究の展開の可能性を感じました。

前者では、NASAの「オリジンズ計画」の柱であり、新世紀初頭に地球型惑星の系統的探索を目指す Terrestrial Planet Finder (TPF) 計画において、「太陽系外(!)黄道光」についてどんな理解が必要かを議論しました。これまで比較的地味な(?)研究対象だった黄

道光に、内惑星領域を持つ主系列星の「トレーサー」としての役割が与えられたのです。

同じ週に選抜された新Discoveryミッションも、太陽風サンプルリターンと彗星探査でした。始原天体のかけらとしての宇宙塵の研究にも一層の深まりが要求されます。日本でも、今秋出航した39次南極観測隊は氷床から宇宙塵を採集する予定です。特に、非溶融宇宙塵の組成は、若い星のBi-polar flowと磁場の作用による惑星系誕生の新説をサポートする証拠としても注目されています。

Amesを去った後、すばる天文台の敷地で観た黄道光は、天の川と同じくらいの明るさでした。将来TPFが発見する宇宙の彼方の地球型惑星にも、同じような光の帯を夜毎見上げている生命がいるのかな。山頂の酸素が薄かったせいでしょうか、夜明け前にふとそんなことを思いました。

(矢野創)

編集委員

村江 達士[編集長] 高木 靖彦[幹事] 矢野 創[ゲストエディター]

荒川 政彦 飯島 祐一 海老原 充 加藤 工 木村 眞 小林 憲正 小林 直樹

佐々木 晶 田近 英一 中村 良介 並木 則行 平田 岳史 松島 弘一 渡部 潤一

1997年12月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第6巻 第4号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 村江達士 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学科

印刷所 〒135 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学理学部地学内

日本惑星科学会 TEL 03-3720-9885 FAX 03-5734-3538

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。